

第 3 回 学校運営委員会 会議録

資料3-1

提出日 令和 8年 3月 9日

学校名	野幌小学校	委員長名	齊藤慶一					
月 日	2月 12日 (木)	(任命した) 委員数	10	内、出席者数	8			
時 間	18:30 ~ 20:30	会 場	野幌小5年生教室					
会議の周知方法で該当するものに○をつけてください。 ホームページ (○)、学校便り (○)								
右の2項目に該当する場合は○を記入してください。 給食試食 ()、授業参観 ()								
傍聴人がいる場合、以下に記入してください。いない場合は、空欄で結構です。								
傍聴人	○ 人	内訳	保護者	人	地域住民	人	その他	人

・当日の議案書及び会議録を1部、提出してください。(規則第15条による)

【出された主な意見、結果等を簡潔に記載してください。】

令和7年度の取組における評価について

□「学校に置ける働き方改革の推進について」教職員の年齢層によって求められる働き方は異なると思われる。若手教員や子育て世代の教員など、それぞれに合った働き方が存在する。

→本校は比較的年齢層が高い教員が多く、どちらかといえば家庭に仕事を持ち帰らず、校内で業務を完結させる働き方が定着している。そのため、退勤時刻が遅くなる教員も少なくない。こうした状況を踏まえ、帰ることができる日はできるだけ早く退勤するよう意識付けを図っている。

「保護者・地域・他機関との連携」および「地域素材・人材の活用」について

□地域の協力体制の変化や人材の高齢化が大きな課題となっている。例えば、これまで学校活動を支えてきた林業技士会は高齢化が進み、後継者不足が深刻である。そのため、学校の原始林を活用した学習活動においても、学校側が求めている内容が十分に実現できているか、慎重に見つめ直す必要がある。

かつての野幌小学校で行われていた活動と単純に比較することはできないが、時代の変化により同じ形を再現することが難しい一方で、学校として大切にしてきた「野小らしさ」のある活動が衰退してしまうことは望ましくない。また、地域の側からも、学校に対して「こうした取り組みを続けてほしい」といった意見があれば、遠慮なく声を届けてほしいと考えている。

→本校としては、地域の皆様の協力と理解に深く感謝している。そのうえで、持続可能な形で、新たな「野小らしさ」を共に模索していくことが求められている。地域に選ばれ、地域に必要とされる学校であり続けるためにも、これからの連携の在り方をさらに検討していきたい。

■「児童用タブレットの活用については、保護者から操作方法がわからないという声が寄せられることがある。インターネットをどこまで利用してよいのか、宿題はどこを開けば確認できるのか、あるいは子どもが本当に宿題を終えているのかどうか、家庭で十分に把握できないという不安も聞かれる。保護者向けの操作マニュアルのようなものがあると、家庭での学習支援がよりスムーズになると思われる。

→学校としても保護者が安心してタブレットを扱える環境づくりを進める必要があると考えている。

■小中一貫の取組に関わる話題なのか判断が難しい部分もあるが、いわゆる“中一ギャップ”と呼ばれる問題について、現状を踏まえて考える必要がある。小規模集団である野小から、急に大きな集団規模の中学校へ進学すると、新しい環境にうまくなじめず、疎外感のようなものを抱いたり、新たな人間関係の構築に戸惑ったりする児童がいる可能性は十分に考えられる。こうした移行期の不安を軽減するために、学校として何かできることはないかと感じている。

→子どもたちが安心して中学校生活へ移行できるよう、小中の連携を通して、情報共有や段階的な接続、事前の交流(中学校説明会時)や体験活動の機会(音楽交流会はR8年度から)など、現状に応じた支援の在り方を検討していく必要があると考えている。